

編集発行責任者 伊藤 洋

〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2

TEL:03-3603-2111 (代表)

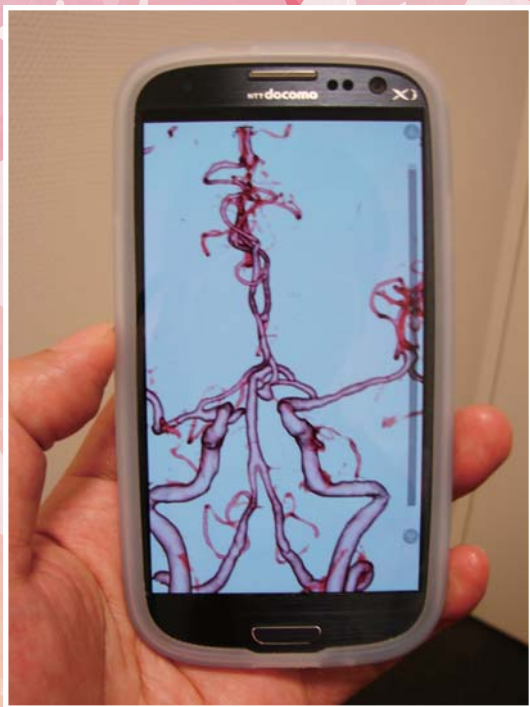
URL:<http://www.jikei.ac.jp/hospital/katsushika/>

E-mail:[aotokouhou@jikei.ac.jp](mailto:aotokouhou@jikei.ac.jp)

## INDEX

01. i-Stroke ~切れ目のない脳卒中医療を目指して~
02. リハビリテーション科の紹介
03. おいしい栄養のあるごはんの提供
04. 公開セミナーが開催されました、  
平成23年度初期臨床研修医の臨床研修が終了致しました、編集後記

## i-Strokeの導入 — 切れ目のない脳卒中医療を目指して —



病院のコンピューターから送られた脳血管の立体画像

脳梗塞発症から4.5時間以内の治療開始が絶対条件の血栓溶解療法は、その開始時期が早ければ早いほど機能予後の改善に期待が高まる治療です。つまり発症後は一刻も早い対処が求められるわけですが、このことは何も脳梗塞治療に限ったことではなく、脳出血やくも膜下出血など脳卒中全般にも言えることです。葛飾医療センターでは、このような脳血管障害に対する治療を適切にそして出来るだけ速やかに進めることを目的にi-Strokeを導入しました。これは脳神経外科専門医が病院内に不在の場合、医師が携帯するスマートフォンを用いてCTやMRI画像を院外で閲覧し、的確な治療方針を速やかに下すことを目的に慈恵医大脳神経外科を中心に開発されたシステムです。通常、脳卒中疑いの患者さんが来院するとまずCTやMRI検査を行い、脳神経外科専門医の診断に基づいて治療が開始されます。しかし、限られた診療スタッフで日々の診療にあたらざるを得ない状況の中では専門医不在の時間帯がどうしても発生してしまいます。このシステムは、専門医による検査結果の一次診断を常時可能にし、適切な治療を速やかに開始することが出来るようにしてくれます。葛飾医療センターでは、このi-Strokeをフルに活用し、切れ目のない脳卒中医療の構築に全力を挙げていきたいと考えております。(赤崎安晴記)

## リハビリテーション科の紹介

リハビリテーション科は、医師2名、理学療法士(PT)6名、作業療法士(OT)3名、言語聴覚士(ST)2名の計13名で構成されています。リハビリテーション室は新病院開院に伴い広さ設備ともに充実しました。景観も良く、大きな窓からは中川を臨むことができ、患者さんからご好評をいただいております。

私たちが機能回復のお手伝いをさせていただいている患者さんは、主に入院の方が中心となっております。当院でのリハビリテーションの対象となる患者さんは、脳卒中・神経難病・骨折などにより日常生活動作に困難が予想される患者さんが多いですが、療養による安静期間が長くなり歩行困難などが生じてしまった患者さんについても行っています。当院では、院内病棟及び外来主治医よりリハビリテーション依頼をいただき、可能な限り手術後および御入院後早期からリハビリテーションを行うよう努めております。

PTは運動療法(筋力トレーニング、座る・立つなどの基本動作練習、歩行練習)が中心ですが、症状によっては呼吸リハビリテーションなども行います。

OTは上肢機能障害に対するリハビリテーションが中心ですが、日常生活動作や家事動作の練習に加え、趣味・仕事などの「作業」を通して機能回復のお手伝いができればと考えています。

STは失語症(話す・聞く・読む・書くことの障害)に対するリハビリテーションを中心とし、言葉の表出・理解の改善を目指します。また構音障害(ろれつ回りにくさ)に対して、口唇・舌の運動や音読練習を行ったり、嚥下(食事の飲み込み)障害を持つ患者さんに対し、飲み込みの練習や口の中のマッサージなどを行います。

リハビリテーションにより、利用されている患者さんの生活の質が向上できるよう、スタッフ全員が一丸となりお手伝いをさせていただきたいと思っております。



# おいしくて栄養のある「ごはん」の提供

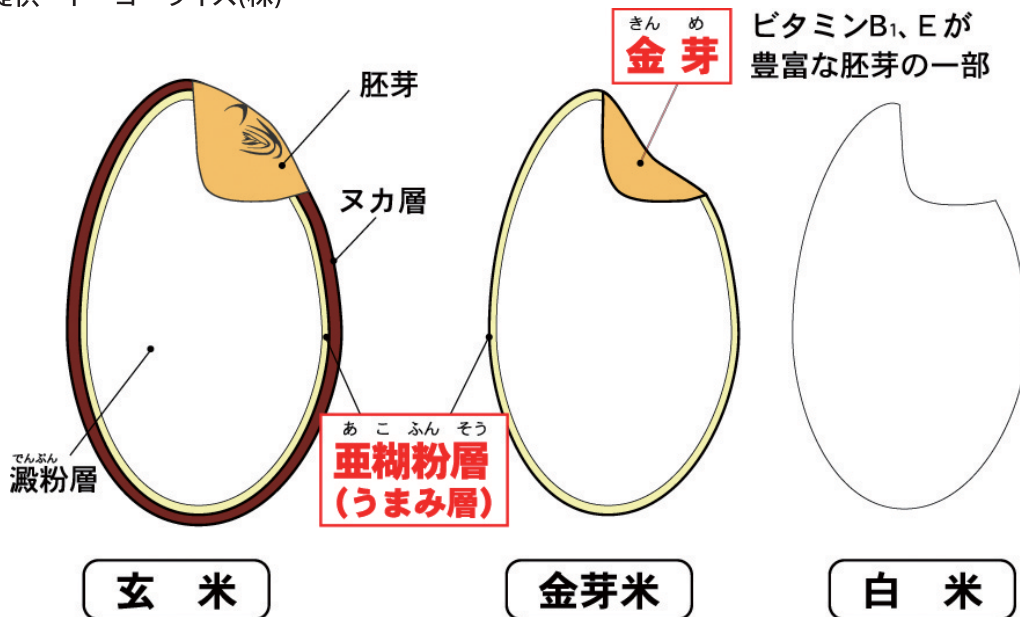
栄養部 管理栄養士 林進

当院は、入院されている患者さんに対し、病院では珍しいといわれている月4回の「麦ごはん」と、毎食「金芽米ごはん」を提供しています。提供を始めたきっかけは、学祖である高木兼寛(かねひろ)の教えに基づいたもので、海軍軍医であった高木は、当時、軍隊で流行していた脚気に対して、麦飯を取り入れた食事を実践する事により、脚気を激減させました。この教えに従い、昔からの知恵と新しい知識を取り入れながら食事を提供しております。

脚気はビタミンB1不足から発症することは周知の通りですが、麦の栄養価は、白米に比べてビタミンB1や食物繊維を豊富に含んでおります。昨今では、食後の血糖上昇を穏やかにする効果もあり、健康な方は無論のこと、糖尿病の方の長期的な療養生活にも有効といわれており、糖尿病代謝科の医師から、毎日提供してほしいと要望がありました。当栄養部で検討した結果、金芽米の使用を開始いたしました。金芽米は、白米まで精米せずに手前でとめるのでヌカ部分やうまみ成分である亜糊粉層と胚芽を残したお米で、麦ごはんと同様に、ビタミンB1や食物繊維を多く含んでおります。お米の本来持っている栄養価やおいしさを捨てずに残した優れたもののごはんです、ご賞味ください。



●イラスト提供 トーヨーライス(株)



※**亜糊粉層**:うまみ成分のオリゴ糖類、ミネラル類、ビタミン類、良質のたんぱく質、食物繊維などの栄養がある。

## 公開セミナーが開催されました

平成25年2月9日(土)に当医療センター5階講堂にて、第33回葛飾医療センター公開セミナー『脳卒中のお話 一ならないために、なった時のために』が開催されました。今回は過去最多の245名という参加人数で、非常に大盛況でありました。

第1部、脳神経外科の荒井隆雄医師からは「脳卒中ってどんな病気?」、次いで第2部の神経内科の橋本昌也医師からは「ホントは怖い“かるい”脳梗塞」の演題で、それぞれの診療科の視点から分かりやすくお話しをしました。

脳梗塞の基本説明をはじめ、脳卒中の自己診断セルフチェック、“かくれ脳梗塞”の危険性や気をつけるべき生活習慣、早めの受診の重要性などについてわかりやすく丁寧に、時にはユーモアを交えて解説を行いました。

今回は定員を大幅に超える方々に足をお運び頂き、やむを得ず入場制限をする形となりました。ご参加できなかった皆様にはお詫び申し上げます。

引き続き皆さまに役立つセミナーを開催できるよう企画して参りますので、ぜひご参加下さい。



次回開催予定：平成25年6月8日(土)



## 平成23年度初期臨床研修医の 臨床研修が終了致しました



未来の慈恵大学を担う医師として、さらなるご活躍を祈念致します。  
2年間お疲れ様でした。



### 編集後記

このところ気温が急激に上がり、桜の開花が一気に進む暖かさとなりました。この編集後記を書いている、少し前までは寒い日が続いていたかと思ったら、春めいてくる余韻もなく、桜の開花が早まるとの予想が報道されていました。葛飾医療センターニュース4月号が発刊される頃には、葉桜になっているかも知れませんね。  
季節の変わり目は、体調を崩すことが多いので、皆様に置かれましては体調管理に気をつけてお過ごしただけますようお願い申し上げます。